各位

青葉の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。コロナ禍で、人との交流が出来ない生活が続き、二年もの月日が流れ、最近では変に慣れ来たのか、これが当たり前のように感じることが、仕方がない事ではありますが寂しく何だか張り合いがないように感じます。

そんな中、自治会の役や、ＰＴＡ、各種保護者会等の事業や活動が出来ない事が拍車をかけたのか、存続について耳にすることが多くなりました。

何もやらなくてもいいんじゃないか？必要あるの？役も大変だし忙しいし・・・。確かに誰もかれも忙しすぎますが、交流の機会も人のお世話で繋がることも少なくなっていく・・もしかしたら無くなってしまうかと思うと少し不安になります。

私も、我が子が小さい頃、地域の役や学校の役をしましたが、その頃の事を思い出してみると、大変だったけれど楽しかったなと思う事がたくさんあります。

我が子と一緒に、近所の子ども達とも仲良くなって、その親たちも協力してくれて、色んなことをやったなあと思い出します。

我が子がボーイスカウトに入った時、親の手伝いが必要でした。

どうせやるなら楽しもうと、子ども以上に楽しみました(笑)子どものお蔭で私はいろんな体験をさせてもらいました。その時に教わったことが「一生懸命やれば何でも出来る！一生懸命やれば何でも楽しい！一生懸命やれば誰かが助けてくれる」という言葉です。

どうせやるなら自分なりに一生懸命やってみよう、どうせやるなら楽しくやろう！その気持ちが人を動かすのだなと気づきました。一生懸命やっている人を見ると手伝いたくなるし、自分が一生懸命やっていると、必ず手伝ってくれる人がいました。だから楽しかったのかもしれません。

そして、それを見ていた子ども達にとっては、身近な大人が自分達の為に何かを一生懸命してくれていたなあという体験ではないでしょうか。

子どもの頃の記憶は、自分が大人になった時に蘇り、自分も又子どもにしてあげようと次の世代に数珠つなぎが出来ることだと思うのですが、そんなことも、もうなくなってしまうのでしょうか・・・。

令和四年六月号のお便りに添えて

社会福祉法人　積慶園　　京都市嵯峨野児童館

館長　飯吉昌子